

よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～

1 主題設定の理由

グローバル化、高度情報化、生成AIの台頭などにより、複雑化され未来予測が難しい時代を生きる私たちにとって「ウェルビーイングな社会・ウェルビーイングな一人一人の人生」を目指して生きていくことが重要となる。社会科の文脈に沿って言い換えれば、「一人一人が社会とつながる」ことで、「よりよい社会の実現を目指す主体者となる」ことの重要性は、ますます大きくなってきていると言える。令和6年度、岐阜県小学校社会科研究部会は、「よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習～子どもが社会とつながる授業を通して～」というテーマのもと、それぞれの地域・学校で実践を重ねた。成果と課題をまとめて、令和7年度に実施される美濃地区大会につなげていく。

◇成果

〔研究内容1－(1)〕

- ・美濃地区全体で「デジタル資料集」を作成・共有するなど、地域教材の「デジタル化・共有化」が進んだ。

〔研究内容1－(2)〕

- ・学習課題の自己決定やテキストマイニングの活用による⇒⇒「問い」のもたせ方の工夫が見られた。



〔研究内容3－(1)〕

- ・「資料の読み取り方」「社会的事象の見方・考え方」などの『見える化・プレート化』の工夫によって、自ら学び進めるための援助になった。
- ・「見通しカード」の活用が広がり、一人一人の学びを教師も見取りやすくなり、適切な指導・援助につながった。

◆課題

〔研究内容2－(2)〕

- ・選択・判断の授業実践が少なかった。

〔研究全体について今後の危惧として…〕

- ・研究内容と現場での実践が乖離していないか。(なかなか実践するのが難しい)
- ・これまで岐阜県小学校社会科で大切にされてきた「全体一斉指導の研究」と今、重要度が増している「個別最適な学びの研究」をどのように融合していくのか。

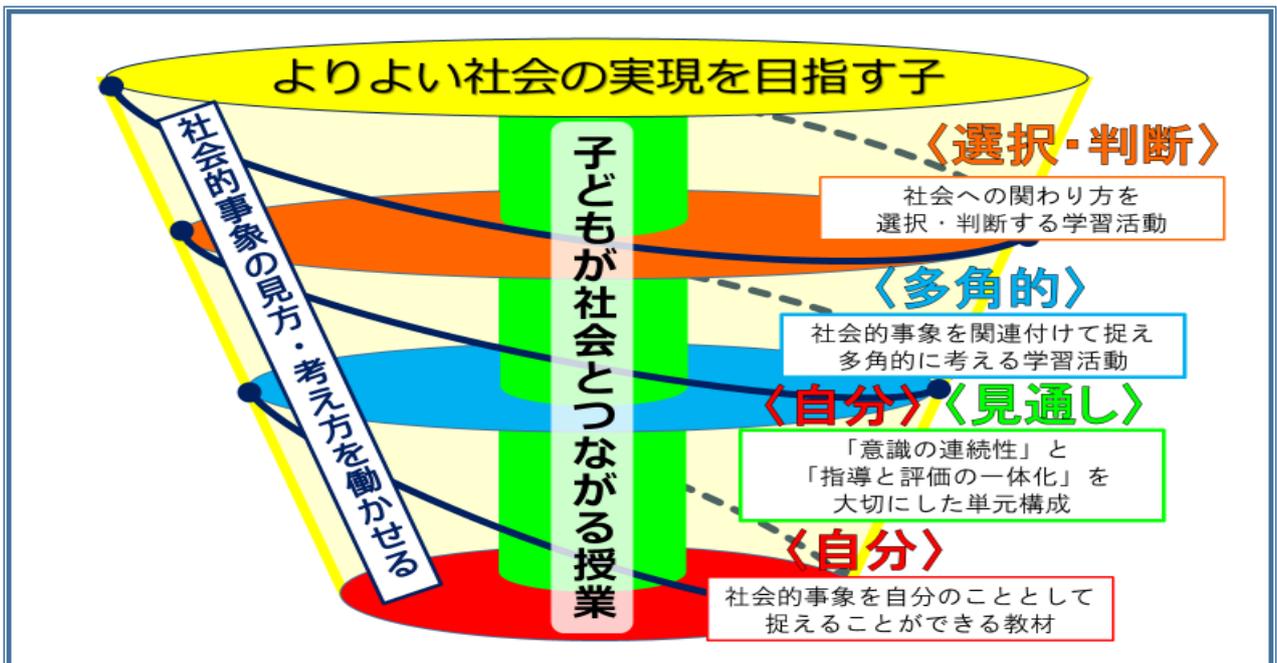
【岐阜県小学校社会科研究部会として 改めて大切にしたいこと】

- ・VUCAの時代を生きる子どもたちに、今「社会科だからこそ」付けたい力を見極め、その方法を追究していくこと。
- ・まずは現場の社会科専科の先生方が実践可能なもの、「やってみたい」と思えることを広げる。
- ・他教科専科の先生もチャレンジしたり、他教科にも応用したりできるものを広げていくこと。
- ・各地域からの優れた実践を取り上げ、価値を再認識したうえで広げていくこと。
- ・これまで岐阜県小学校社会科として大切にしてきたことと、これからの時代において大切にしていくべきことの融合を、少しずつはかかっていくこと。

【令和7年度 研究部としての重点】

- ① 可茂地区大会を中心として、今年度各地域から生み出された実践（具体）の「価値を明らかにして」県内に発信する。
- ② 近年実践が増えてきた研究内容3について、さらに実践を広めていくことで、一斉全体指導だけでなく個に応じた手立ての在り方や大切さを伝えていく。

【図表1】研究主題のイメージ



よりよい社会の実現を目指す子とは
よりよい社会の在り方について考え、自らの生き方につなげていく子

子どもが社会とつながる授業とは
社会的事象を自分のこととして捉え、見方・考え方を働かせながら、その意味を多角的に追究したり、社会への関わり方を選択・判断したりする授業

2 研究内容

研究内容1 教材化や単元構成の工夫

- (1) 社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発 **自分**
- (2) 「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切に単元構成 **自分** **見通し**

研究内容2 学習活動の工夫

- (1) 社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動 **多角的**
- (2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動 **選択・判断**

研究内容3 指導・援助の工夫 **自分** **見通し** **多角的** **選択・判断**

- (1) 社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価
- (2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助

3 研究内容と方法

研究内容Ⅰ 教材化や単元構成の工夫

- (1) 社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発
- (2) 「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切に単元構成

(1) 社会的事象を自分のこととして捉えることができる教材の開発

自分

子どもが社会とのつながりを実感するためには、各単元で取り扱う教材を、子ども自身が「自分との関わり」で考えることが大切である。この考え方は「身近な人々、社会及び自然を自分とのかかわりて捉える」生活科の学習と通底したものであり、生活科同様「子どもの思いや願い」を生かした教材の開発を意識する必要がある。「子どもの思いや願い」を土台に教材を吟味したとき、次のような社会的事象を取り扱えば、子どもが教材を自分のこととして捉え、社会とつながる授業を具現することができると考え、【図表2】のように整理した。

【図表2】子どもが社会とのつながりを実感するための教材の在り方

	取り扱う社会的事象	社会とのつながり	教材化の留意点
①	社会に見られる課題を通して、そこへの <u>関わり方を考えることができるもの</u> 。	身の回りで起きている出来事や社会に見られる課題に対して、自分の関わり方を考える。	子どもの発達段階や学習指導要領の内容に合っているか。
②	人の生き方に <u>感動やあこがれを生み出すことができるもの</u> 。	人の生き方に感動やあこがれをもち、これからの自分の生き方や社会への関わり方を考える。	特定の人物の学習をするのではなく、一般化して考えることができるか。
③	<u>既習内容や子どもの生活経験に関連するもの</u> 。	これまでに学習した内容や生活経験を生かして、社会に対する認識をさらに広げたり深めたりする。	子どもの実態を把握し、認識を広げたり深めたりすることができるか。

【図表2】の教材化の留意点にもあるように、自分のこととして捉えやすい教材こそ「どのように一般化を図るか」まで考えておくことで、真の意味で「子どもが社会とつながる」教材となり得る。

また、社会的事象を自分との関わりで捉えやすくするためには、他教科や他の領域との関連を考えて教材化を図ることも有効である。教科等横断的な学習（カリキュラムマネジメント）や、令和6年度に美濃地区で実践されたように、近隣校と連携しながら「地域教材のデジタル化・共有化」もぜひ進めていきたい。

(2) 「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切に単元構成

自分

見通し

子どもが社会的事象を自分のこととして捉えるためには、「教師が一方的に描いたシナリオ」ではなく「子どもの意識の連続性」をできる限り具体的に描く必要がある。子どもがどのような「問い」や「考え」で社会的事象を追究するのかを事前に想定しておきたい。その際に意識したいのが「指導と評価の一体化」である。やみくもに「子どもの意識や姿」だけで単元を構成しても、確かな資質・能力が身に付くとは限らない。単元全体や一単位時間の「評価規準」を明確にした上で、子どもの意識を描くことで、一単位時間の役割、資料や発問、教師の指導・援助が明らかとなる。前文と単元構成表の作成を以下のように工夫することで、「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切に単元構想につながると考えている。（本資料のPI5に「前文のフォーマット」、PI6に「単元構成表の記述例」を掲載しています。）

〈学習指導案 作成上の留意点〉

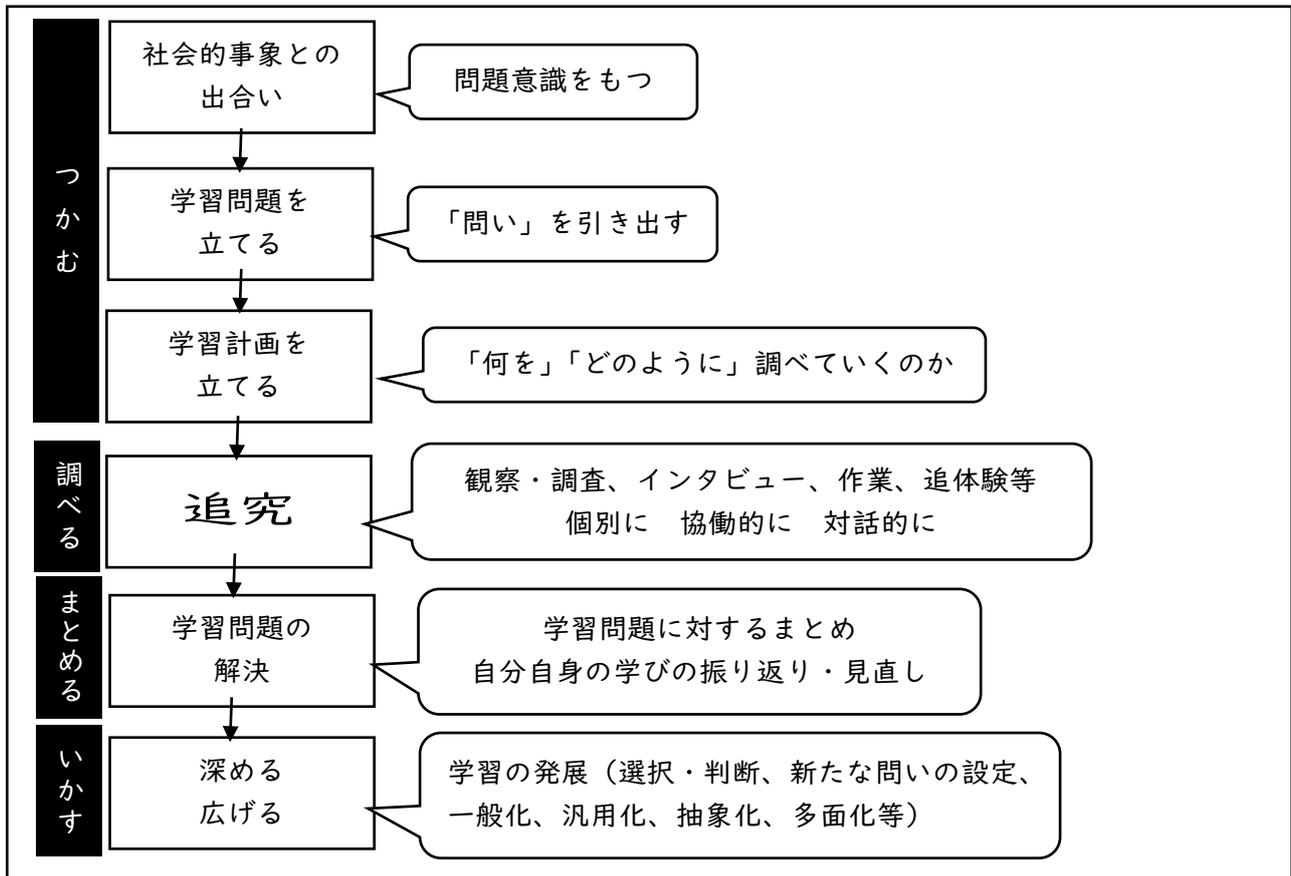
—前文 作成時—

- 【1】 学習指導要領をもとに「単元の目標」を設定する。
- 【2】 「単元の目標」を、学習活動に落とし込んだ「単元の評価規準」を設定する。

—単元構成表 作成時—

- 【3】 「単元の目標」をもとに「学習前・学習後の子どもの意識」を設定する。
- 【4】 「単元の目標」をもとに「単元を貫く学習問題」を設定する。
- 【5】 第1時から順に、「問題解決的な学習のプロセス（以下参照）」を意識しながら、子どもの「問い」や「考え」を想定して授業をつないでいく。
- 【6】 1時間のまとめ（□で囲まれた部分）を、「単元の評価規準」の、どの部分と照合するかを確認しながら設定する。
- 【7】 単元全体ですべての「評価規準」を満たしているかを確認する。
- 【8】 1時間のまとめ（□で囲まれた部分）の中で、「評価したことを記録に残す場面」については網掛けする。

〈単元における問題解決的な学習のプロセス〉



これまでの岐阜県の実践より（ICT活用で 実践しやすく！）

そうは言っても、すべての単元で前文や単元構成表を詳細に作成することは、様々な面から難しい。そこで、令和5年度郡上市で実践された「見通しカード」を紹介する。

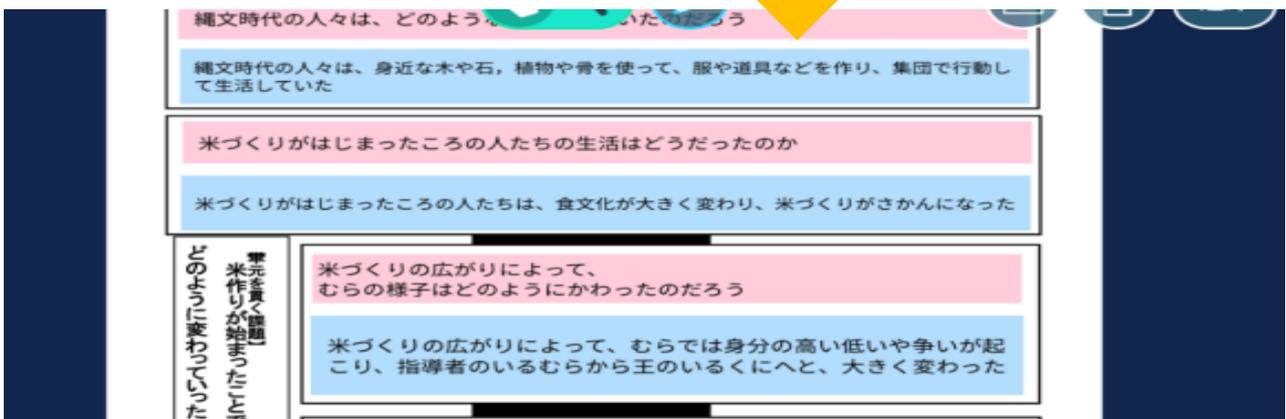
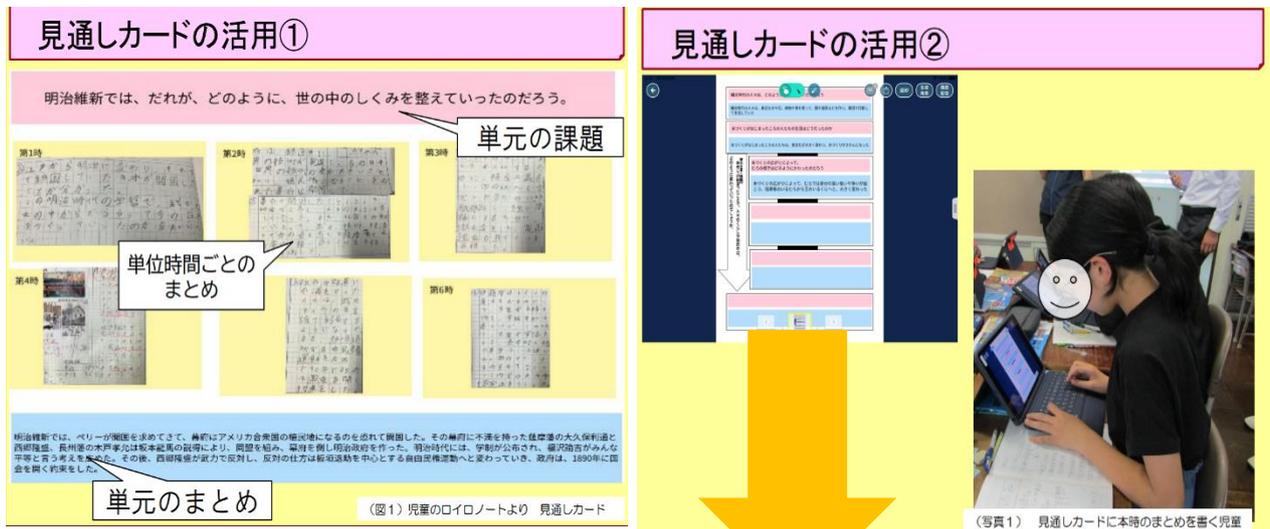
ICTのロイロノートを活用して、「単元の課題」「単元時間の課題」「単元時間のまとめ」を蓄積していく。

児童の実態によって、「見通しカードの活用①」のようにノートの記述を組み合わせることも可能であるし、「見通しカードの活用②」のように「すべてロイロノート」で作成することもできる。

この見通しカードの構想自体はあらかじめ教師が「大まかに」考えておくが、実際の授業（単元の1・2時間目あたり）で児童の考えを聞きながら、共に創り上げていく。

この見通しカードの作成によって、**①教師は、単元全体や一単元時間の「評価規準」を明確にした上で、児童の意識の変容や、教師の指導・援助を考えることができる。****②児童は、「単元の課題」や「その解決に向けて、自分がどのような学びをしてきたのか（これからしていくのか）」を常に意識しながら、学びを進めることができる。**

【図表3】実践で作成・活用された見通しカード①②



「見通しカード」を活用していくことは、研究内容1—(2)で目指す「意識の連続性」「評価と指導の一体化」の実現だけでなく、後述する研究内容3—(1)の「主体的に問題を解決しようとする態度（学びの自己調整力）」の育成にもつながっていくと考えている。

研究内容2 学習活動の工夫

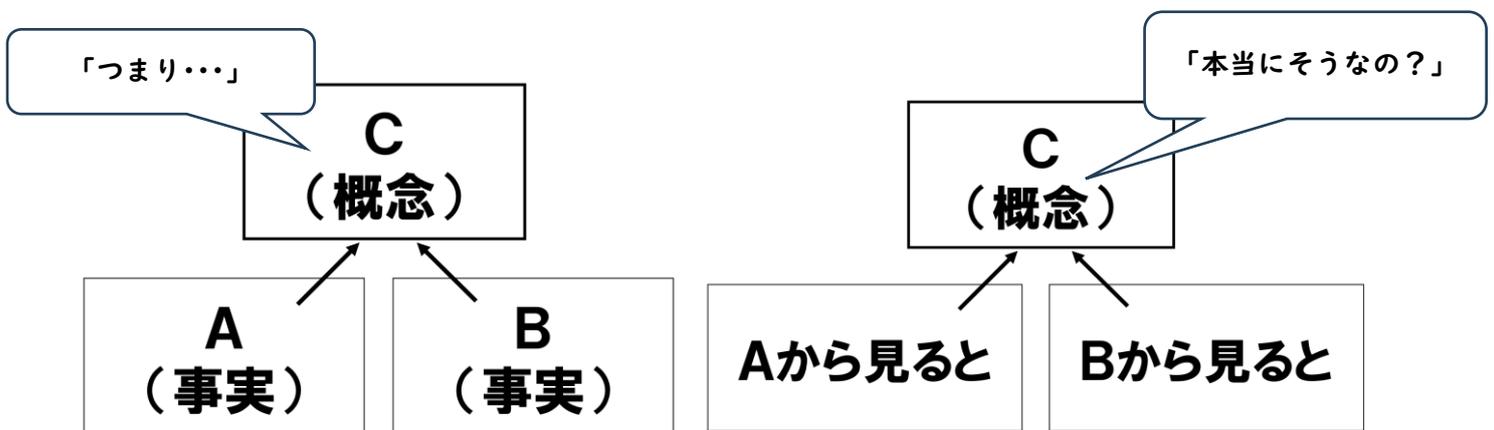
- (1) 社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動
- (2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動

(1) 社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動

多角的

研究内容2は一単位時間における学習活動を示した内容である。

(1)「社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動」には、大きく分けて2つの意義がある。1つ目は事実と事実を関連付けて、「つまり…」という社会的事象の意味や特色(概念)を生み出すための学習活動。2つ目は、獲得した概念に対して一度立ち止まり、「本当にそうなの？」と吟味するための学習活動。前者は特に社会認識を獲得すること。後者は特に多角的・批判的・吟味的に考える力を育むことにつながっていく。



このように、子どもたちが、「つまり…」と「本当にそうなの？」という2つの考え方をを用いることが、『社会科で付けたい力をより育成することにつながっている』という認識をもった上で学習活動の内容を考えていきたい。

以下の「多角的に考えるための 具体的な視点例」をもとに、県内でも様々な実践が行われている。(次ページからを参照)

魅力的で、かつ実践しやすいものが多いので、地域や学校の実態または学習内容によって今後も適切な学習活動を考えていきたい。

多角的に考えるための 具体的な視点例

- | |
|--|
| ① 「共通性」「順序性」を考える
様々な立場や意見の共通性や順序性に着目し、社会的事象の意味についての考えを集約する。 |
| ② 「異なる立場」から考える
様々な立場の人に着目し、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える。 |
| ③ 「他の事象」から考える
別の社会的事象に転化して一般化を図り、他の社会的事象との相互の関連を考える。 |
| ④ 「自分との関わり」から考える
自分と社会的事象との関わりを見つめ、社会的事象の意味と自分の生活との関連を考える。 |

「つまり…」タイプ
(社会認識を獲得)

「本当にそうなの？」
タイプ
(多角的に考える)
(批判的・吟味的に考える)

これまでの岐阜県の実践より（多様な学習活動があります！すぐに実践できそうなものも！！）

実践例① 教師からの深めの発問！！

「つまり…」タイプ

① の発問

→ 「共通性」を問い「生産者の願い」という社会的事象の意味（概念）を生み出すことを促す。

「本当にそうなの？」タイプ

② の発問

→ 「住民の生活を救いたい」という概念を、「国の立場」から多角的に考えることを促す。

③ の発問

→ 「T社の取り組み」の意味を「他社の立場」から多角的に考えることを促す。

④ の発問

→ 「市の取り組み」の意味を「自分自身の立場」から多角的に考えることを促す。

① 「共通性」を考える

事例：3学年「農家の仕事」

農家の人が厳しく選別するのは、「大きさ」や「形」を揃えて「傷」のない枝豆を出荷したいからだ。

「大きさを揃える」ことや「形をそろえること」こと、「傷のない」ことに共通している願いは何か。

意見を関連付けて共通する願いをまとめる

見た目や質の良い枝豆をたくさん出荷し、お客さんに安心して買ってもらいたいから、厳しく選別している。

② 「異なる立場」から考える

事例：6学年「世界に歩み出した日本」

田中正造が天皇に直訴までしたのは、渡良瀬川の住民の生活を救いたかったからだ。

困っている人がいるのに、なぜ政府は足尾銅山を閉鎖しなかったのかな。

国の立場から考え、時代背景と関連付ける

富国強兵を目指し、列強に追いつこうとする国の立場もわかる。国の発展の背景には、国民の犠牲があったんだ。

③ 「他の事象」から考える

事例：5学年「自動車をつくる工業」

T社が多額の費用と時間をかけて、水素車を開発したのは、未来の地球環境を考えたからだ。

他社でも未来の地球環境のことを考えて開発している自動車はないかな。

学んだことを基に、自動車工業全体を見つめ、持続可能性のある社会づくりと関連付ける

日本の自動車工業は未来の国民生活を考えた新たな車づくりの努力をして国民生活を支えている。

④ 「自分との関わり」から考える

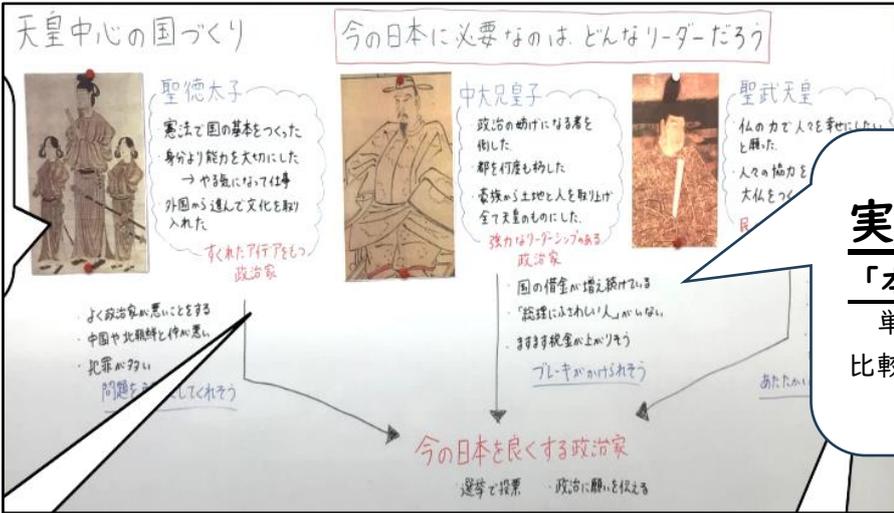
事例：4学年「ごみのしよりと利用」

市が雑がみ回収に力を入れているのは普通ごみに混じる資源を再利用し、市のごみを減らすためだ。

単元のはじめに行ったあなたの「我が家のごみ調べ」を見て見よう。

市の対策と自分の協力を関連付ける

自分の家でも、もっと雑がみを分別できる。市のごみを減らす対策に少しでも協力していきたい。



実践例② 单元 = 单元！！

「本当にそうなの？」タイプ

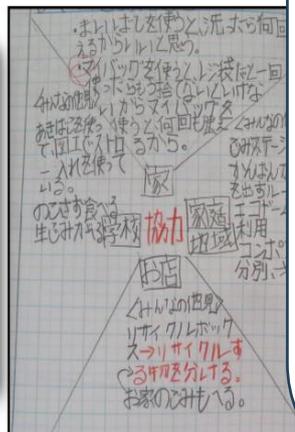
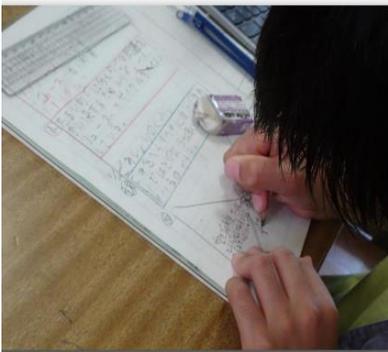
单元で学んだことと单元で学んだことを比較して考える学習活動



実践例③ 思考ツール！！

「つまり…」タイプ

思考ツールの形式に合わせて調べたり、仲間の意見をまとめたりしていくことで、根拠や理由が関連付き、概念が形成される。下のXチャートは、視覚的に共通点をとらえられるため、概念形成にもつながりやすい



「本当にそうなの？」タイプ

思考ツールは「比較のしやすさ」にもつながる。例えば上のピラミッドチャートは、信長・秀吉の違いを視覚的にとらえやすく、比較した結果「本当に信長か?」「でも秀吉の方が…」の部分…という思考が働きやすい。

②せりふを考えて、4コマまんがを完成させよう。

武士が最も大切にしていたものは何だったかを思い出し、せりふを考えよう。

元寇の竹崎季長

これで恩賞がもらえる

勝ちましたね

① 戦いで活やくし、引きあげてきた季長

活躍して、勝利したのに恩賞がない

② 期待して

あげれる領地が無い

③ 鎌倉まで行き、自分の働きをうたえた

いつになったら恩賞がもらえる

④ そのかいあって、ようやく恩賞をもらった

⑤ 恩賞をまだもらえていない武士のせりふも考えよう。

実践例④ 吹き出し・セリフ！教科書でも！

「本当にそうなの？」タイプ

台詞を考えることで、自然に「異なる立場から」考えられる。考える内容が焦点化されるので、その後の話し合いや考えの比較も行いやすい。

(2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動

選択・判断

(2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動においては、社会への関わり方を選択・判断する場を意図的に位置付けることを通して、「自分自身はどのように関わればよいか」「社会の在り方はどうあるべきか」等を考えることができるようにする。

その際に大切なことは、社会への関わり方を選択・判断する授業を単元全体でとらえ、学習対象と自分とのつながりを意識しながら学習を進めることである。そうすることで、単元で獲得した概念的知識を活用しながら、社会とどのように関わっていくとよいのかという意識を育てていけると考えている。そこで、単元を通して行う選択・判断の授業の段階を【図表4】のように整理した。

また、選択・判断の学習では、内容の枠組みに応じて、【図表5】のようなTypeが考えられる。

【図表4】 選択・判断の授業の段階

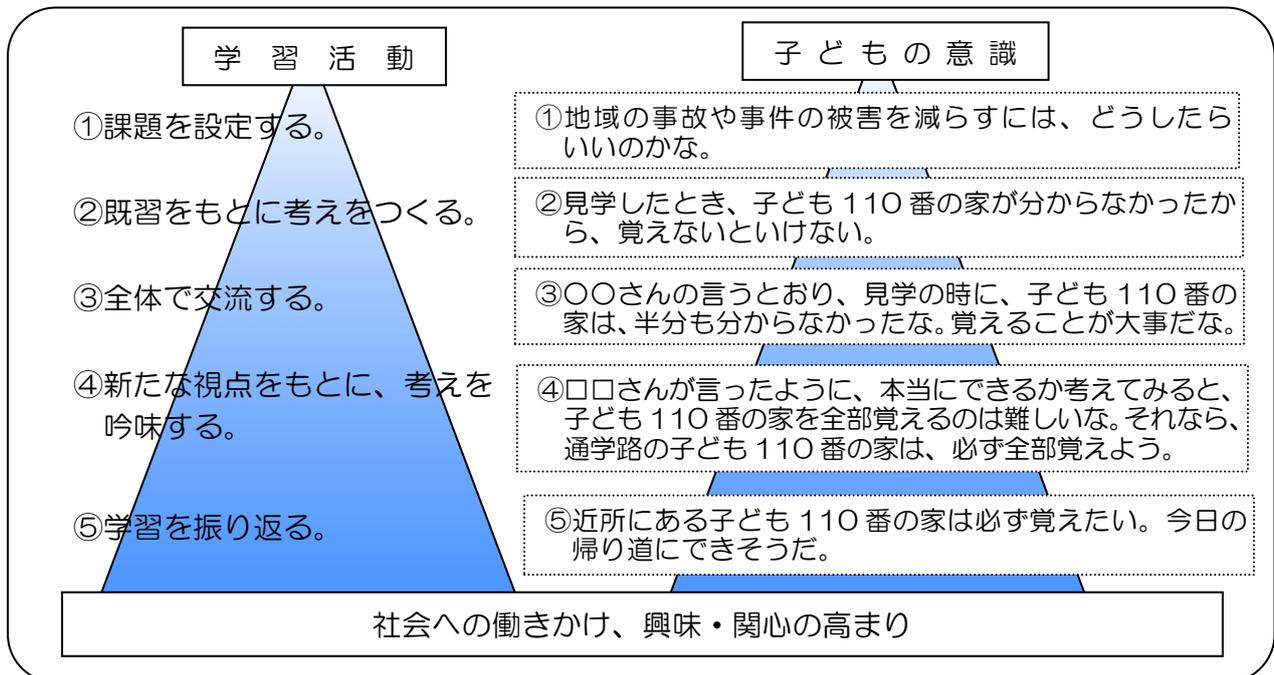


【図表5】 社会への関わり方を選択・判断する授業の具体例

Type	方法	具体例
A	社会に見られる課題に対し、自分の関わり方を考える。	[第4学年 ごみのしよりと利用] ごみを減らすために、自分のできることは何か。
B	社会に見られる課題に対し、実際に行われているいくつかの働きの中から、選択する。	[第5学年 米づくりのさかんな地域] F社が今後も生産を続けていくためには、「品質の高い家庭用米」か「大量生産できる外食用米」のどちらを作るとよいか。
C	社会に見られる課題に対し、これからのよりよい社会の在り方を考え、提案する。	[第3学年 市のうつりかわり] 〇〇市を人が住みたくくなるような市にしていけるためには、どうしたらよいか。

さらに、一単位時間の授業を、【図表6】のように構成した。

【図表6】 社会との関わり方を選択・判断する授業の構成例 (Type A)



- (1) 社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価
- (2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助

(1) 社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価

研究内容3は「指導・援助」、そして「評価」の在り方についての内容である。

子どもが社会とのつながりに気付くことができるようにするためには、子ども自身が「主体的に社会的事象に関わる」ことが大切である。そのため「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」だけでなく「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指す必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための第一歩が「指導・援助と評価」の明確化である。「態度」の評価や指導は「分かりにくく難しい」という意見も多いため、今後も実践を通して研究を深めていきたい部分である。以下に要点や実践例をまとめる。

「主体的に学習に取り組む態度」については、次のような指導と評価を大切にしたい。

【図表7】「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

評価する主な場面	評価する子どもの姿	教師の指導
① 授業（一単位時間・単元）の導入	・問題解決に向けて、予想を立てる姿 ・解決までの見通しをもつ姿	・予想を比較したり関連付けたりできるように板書したり、問い返したりする。
② 授業（一単位時間・単元）の中盤	・自分の学習を振り返り、今分かっていることと、まだ調べる必要があることを考える姿	・課題とつなげて考えづくりをするよう助言する。 ・分かったことを整理させたり、未解決なことを表現させたりする。 ・一人の児童の新たな問いを全体で共有する。
③ 授業（一単位時間・単元）の終末	・振り返りに分かったこと、考えたことの変容を記述する姿	・変容の見られる記述を価値付ける。
④ 授業（一単位時間・単元）の終末	・振り返りに次の学習への見通しをもつ姿	・さらに調べるべきことを見いだしている記述や発言を価値付ける。

「主体的に学習に取り組む態度」に関わって、P5の実践例で紹介した「見通しカード」は、活用の仕方によってこの①と②の姿を指導・評価することにつなげることができる。

令和5年度の実践では、どちらかと言えば「課題」「まとめ（知識）」を書き込んで蓄積するポートフォリオのような活用の仕方であった。

令和6年度はさらに次のページのような実践が行われ、より「主体的に学習に取り組む態度」の評価と育成につながってきているので、今年度参考にしていきたい。

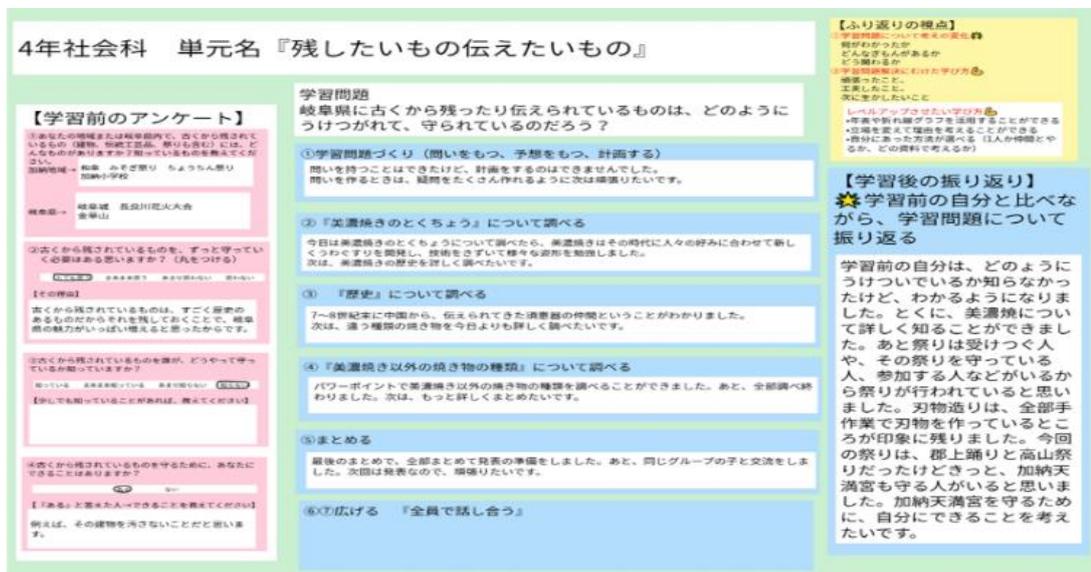
また、「主体的に学習に取り組む」ための環境的支援として、「資料読み取り表」や「見方・考え方プレート」などの実践も見られた（P12）。

令和6年度の実践より（見通しカード）



【図表8】
「見通しカード」の
実践①

図表8の6年生の実践では、単元の導入は一斉授業で行い、単元の学習問題を設定した。その後、教科書の「問い」を参考に、どのような順序で、何を調べるのかを、事前にカードに打ち込むようにした。カードの枚数（総時間数）はこちらから指定し、解決までの見通しがもてるようにした。2時間目からは終末の時間を使って、青のシートに「ふりかえり」を記入し、一人一人の学びが蓄積できるようにした。



【図表9】
「見通しカード」の
実践②

図表9の4年生の実践では、単元の学習問題を設定した後、第2時以降の調べ学習からは、個々に学習問題を設定した。上記6年生の実践と同様に、毎時間、終末の時間を使って振り返りを記入するが、その際には「単元の学習問題に対する自分の学習状況」を見つめる時間を設けることで、「自分の学習を振り返り、今分かっていることと、まだ調べる必要があることを考える姿」につながった。

このように「見通しカード」の活用は、「①その時間の振り返りの蓄積」「②学習計画や予想の書き込み」「③単元の学習問題と照らし合わせた 振り返りの蓄積」のように、子どもたちの実態に合わせて、無理なく段階的に発展させていくことで効果的に活用できるのではないかな。

令和6年度の実践より（主体的に学習に取り組むための環境的支援）

絵・写真	グラフ	文章	年表
レベル1 事実読み 資料にある事実を読み取る。 ・○がある。 ・□をしている。 ・数字が○や△になっている。 ・○が△にある。	レベル1 事実読み グラフの○や△を読み取る。 ・一番多いのは○年で、 ・一番少ないのは△年で、	レベル1 事実読み 資料に書かれている事実を読み取る。 ・くねれんとしている。 ・風向きを赤線している。 ・下向きに△がある。	レベル1 事実読み 年表に書かれている事実を読み取る。 ・○年が一番□した。 ・いつ・どれが○をしたか
レベル2 くらべ読み 関連知識や経験などくらべて読み取る。 ・関連知識と違って・・・ ・関連知識と同じで・・・	レベル2 関連読み 年代ごとの○を見つめる。 ・○年では、△年で・・・だから、□年の間に・・・になった。	レベル2 自分の言葉読み 資料に書かれている事実を自分の言葉で読み取る。 ・大事の場面と同じやうびをしてくねれんをしている。	レベル2 関連読み 年表に書かれている事実と自分の知識をくらべて読み取る。 ・コレが○年だったからじょうき場がでたのではない。
レベル3 考え読み 見つけた事実に○や△や□を付けたして読み取る。 ・○が△にあるのは、 ・一から○と見よう。	レベル3 つまみ読み 資料やみんなの意見を自分の言葉で考える。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて、一から・・・になつたのだと見よう。	レベル3 考え読み 見つけた事実に○や△や□を付けたして読み取る。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて読んでみるよ！ ・一から○と見よう。	レベル3 変化読み 年表に書かれている事実に○や△や□を付けたして読み取る。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて考えると○△ということが見える。
レベル4 つまみ読み 資料やみんなの意見を自分の言葉で考える。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて考えると○△ということが見える。	レベル4 未来読み 資料やみんなの意見を自分の言葉で考える。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて考えると○△ということが見える。	レベル4 つまみ読み 資料やみんなの意見を自分の言葉で考える。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて考えると○△ということが見える。	レベル4 つまみ読み 年表の事実やみんなの意見を自分の言葉で考える。 ・資料1と資料2（みんなの意見）をつなげて考えると○△ということが見える。

【図表 10】
資料読み取り表

教室側面に図表10「資料の読み取りレベル表」を掲げ、資料を読み取る際の指導・援助に活用した。「絵・写真」「グラフ」「文章」「年表」という4種類の資料それぞれにレベル1～レベル4までの具体的な読み取り方を示した。レベルだけでなく「読み取り方(ex 事実を読み取る)」「具体的な記述内容(ex ○がある。□がいる。)」を掲載しておくことで、読み取りが難しい児童の助けとなった。

環境	気候	範囲
土地利用	地形	地域
位置	自然条件	

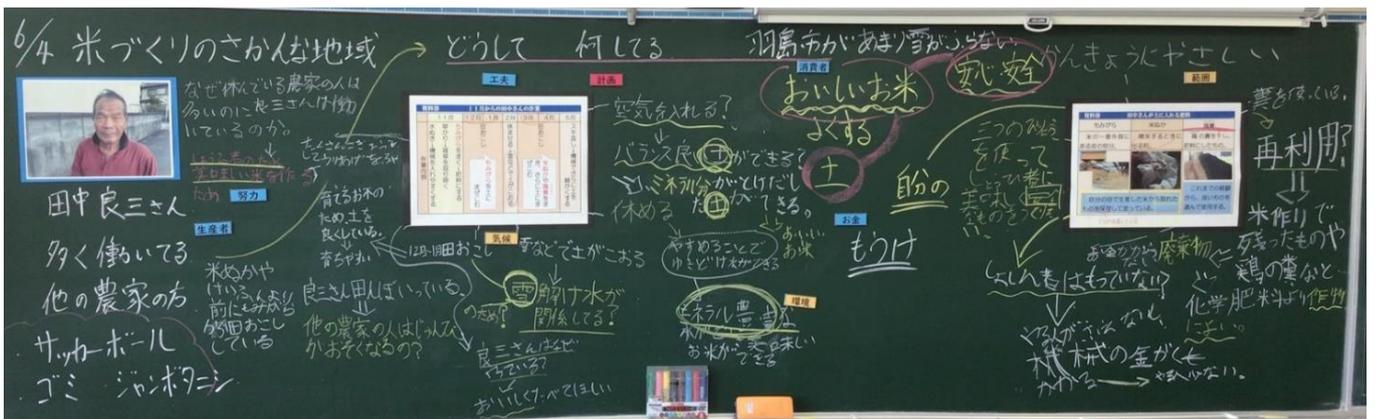
継承	持続可能性	変化
計画	発展	背景
時代	仕組	維持
向上		

生産者	販売者	お金
協力	消費者	願い
工夫	努力	関わり
連携	役割	

【図表 11】 見方・考え方プレートを活用して、子どもたちが作り上げた板書

自分で予想を立てたり資料選択したりする際の指導・援助として、図表9のような「見方・考え方プレート」の活用も考えられる。このように見方・考え方をプレート化しておくことで、「自分が今どんな視点で考えているのか」「どんな視点で追究していくとよいのか」を考えるきっかけとなった。

また、追究したことを個人で黒板に書きに来るようにしてもよい。すると、黒板の周りでも話し合いが進んだり、自分たちで共通する部分を線で結んだりしながら「見方・考え方プレート」を黒板に貼ることで、自分の考えを見つめ直したり、仲間の見方・考え方と比較・関連して考えたりする姿につながった。



(2) 社会への関わり方を選択・判断する学習活動における指導・援助

社会への関わり方を選択・判断する学習活動において、教師には、次のような役割がある。

【教師の役割（指導・援助）】

- ①話し合いの必然性を生み出す（社会に見られる課題と自分たちとの関わりを示す）
- ②授業のアウトラインを描く
- ③選択・判断の規準を明確にする
- ④話し合いを焦点化し、方向性を決める
- ⑤社会にかかわろうとする姿を価値付ける

■単元全体に関わる指導・援助

① 話し合いの必然性を生み出す（社会に見られる課題と自分たちとの関わりを示す）

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では、社会に見られる課題を自分との関わりで捉え、実感をもって話し合いをするために、「みんなと話し合って解決したい」という必然性をもたせることが大切である。子どもが必然性をもつことができるような方法や、それによる子どもの意識を【図表12】にまとめた。

【図表12】 選択・判断の授業における子どもの意識と具体例

方法	子どもの意識（必然性）	具体例
資料を提示する	社会に見られる課題について、解決方法を考えなければならない。	[第5学年 わたしたちの生活と森林] 日本の森林を守るために、大切なことは何だろう。
	未来の自分の生活のために、今考えておきたい。	[第4学年 自然災害からくらしを守る] 災害から身を守るために、できることは何だろう。
学習前の自分を見つめ直す	（社会に見られる課題を解決するために）自分にもできることがあるかもしれない。	[第3学年 事故や事件からくらしを守る] 地域の交通事故を減らすためには、どうすればよいだろう。
G Tからの依頼を聞く	自分たちが考えることを通して、社会の役に立ちたい。	[第3学年 市のうつりかわり] 人々が住みやすい市にするためには、どうすればよいだろう。

② 授業のアウトラインを描く

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では、その場の思いつきの判断や、科学的な根拠のない判断ではなく、それまでに身に付けた知識・技能や生活経験を基に行うことが大切である。そこで、選択・判断をする際には、「単元で習得した知識」「他教科や他の領域で身に付けた知識・技能」「生活経験」（アンケート等を活用して、生活経験を共有できる工夫が必要）を基にして選択・判断するという枠組みを決めることが必要となる。但し、初めから「この枠組みの中で判断しなさい」と強く規定するものではなく、生活経験も子どもが考える足場に含まれることから、発達段階や学習内容によっては、多少の広がりを持たせている。

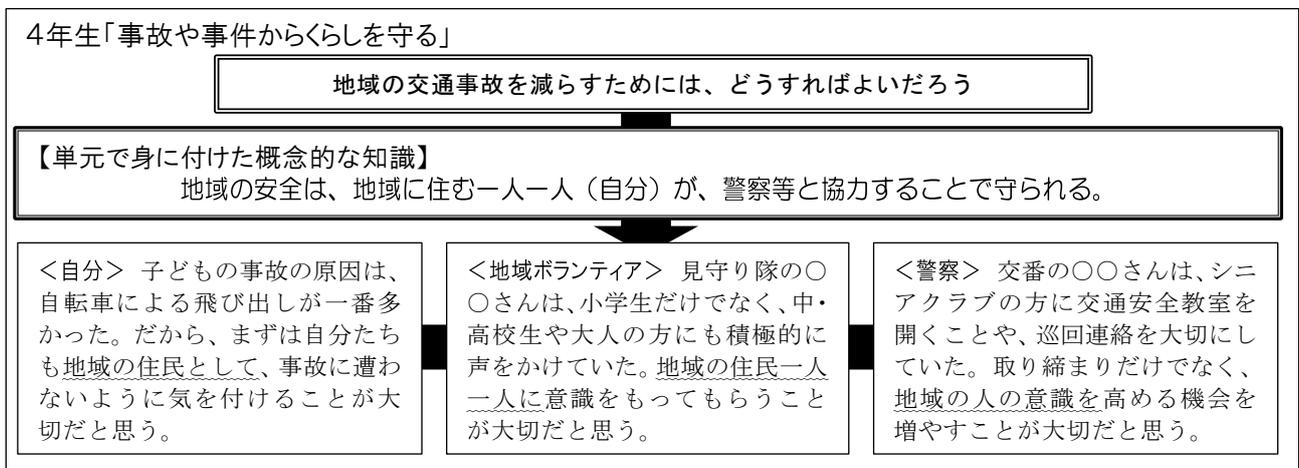
■単位時間における指導・援助

③ 選択・判断の規準を明確にする

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では、子どもたちが話し合いを通して、考えを広げていくことが大切である。その際、子どもたち同士で、話し合った内容が適切かどうかを判断することが求められる。その規準は「単元で身に付けた概念的な知識」になる。(ここでいう概念的な知識とは、社会的事象の特色や意味を地理的環境、時代背景、社会背景とかかわらせて捉えたものであり、汎用性の高い知識) 教師は、この規準を明確に示すと共に、それに即した話し合いになっているかどうかを指導していく必要がある。そうすることで、ただの思い付きの考えではなく、単元の学習を生かした適切な話し合いをすることができる。

以下【図表 13】は、概念的な知識を基に、社会への関わり方を選択・判断した授業の一例である。

【図表 13】概念的な知識を基に、社会への関わり方を選択・判断した授業例



④ 話し合いを焦点化し、方向性を決める

社会への関わり方を選択・判断する学習活動では、答えのない問題について話し合うからこそ、教師は、子どもたちが考えを発表し合って終わるだけにならないよう話し合いを焦点化し、適切に価値付けていくことが求められる。そこで、教師が示す話し合いの方向性と、それを通して子どもたちに気付かせたい新たな学びの関係性を、次のように整理した。

【図表 14】話し合いの方向性と新たな学び

教師が示す方向性	新たな学び
立場を変える／立場を整理する	複数の立場から考えることで、見方・考え方の幅が広がる
単元を貫く課題と関わらせる	社会的事象の見方・考え方の働かせ方を身に付ける
今の自分の生活とつなげる	今の自分にできそうなことに気付く

⑤ 社会にかかわろうとする姿を価値付ける

教師は、話し合いを通して新たな学びに気付いた子どもたちの姿を、適切に価値付けることが大切である。子どもたちが選択・判断の学習活動を通して、自分のこととして社会にかかわろうとする姿や、社会的事象の見方・考え方を働かせて考えた姿を適切に価値付けることで、社会に関心をもち続け、社会への関わり方について考える力を育成することができる。

研究内容 1 – (2) にかかわる資料 (指導案作成例)

前文のフォーマット

① 単元名 「水はどこから」

② 単元の目標

飲料水を供給する事業について、経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水を供給するための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として、自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

③ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水を供給するための事業の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>① 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、飲料水を供給するための事業の様子について考え、表現している。</p> <p>② 飲料水を供給する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付けて飲料水を供給するための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水に向けて、自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現している。</p>	<p>① 飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に、節水に向けて、自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

単元名

水は
どこから

単元学習前の子どもの意識

3年生の時には、火事からくらしを守るために、たくさんの人々が協力して被害を減らそうとしてくれていることがわかったよ。「自分の命や地域は自分で守る」ために、自分にできることも考えることができたよ。私たちの生活の安全や安心は当たり前ではなくて、自分も含めた地域みんなで守っていくものなんだ。

【第1時 学習問題を立てる】

私たちはどのような場面で水を使っているのだろう。

- ・私たちは、いろいろな場面で水を使っているということがよく分かったよ。
 - ・使っている量を比べてみると、特にお風呂や洗濯という場面で、たくさん水を使っているね。
 - ・一人でこれだけの水を使っているなら、〇市全体では、すごくたくさん水を使っているんじゃないかな…
- これだけ多くの水は、どこから、どうやっておくられてくるんだろう。【思—①】

【第2時 学習計画を立てる】

学習問題を解決するために、予想を出し合って学習計画を立てよう。

- ・きっと、雨が関係しているんじゃないかな。 ・私は、海や川の水を使っていると思うよ。
 - ・水道管という言葉聞いたことがあるから、そこから送られてきていると思うよ。
 - ・色々調べるとよいことが出てきたけれど、まずは水が直接出てくる蛇口から調べるといいんじゃないかな…
- どうやら水は、水道管から送られてきているみたい。でも本当にそうなのかな。水道管の先には何があるんだろう。色々調べたいことが出てきたけど、まずはいつも使っている蛇口から調べてみるぞ。【態—①】

【第3・4時 追究① 調査】

学校には、どこにどれぐらい「じゃ口」があるのだろう。

- ・190近くのじゃ口があったよ。水をよく使う場所にはたくさんあったよ。
 - ・じゃ口には管がつながっていて、たどってくと受水槽があったよ。
 - ・受水槽の水はどこからどうやって送られてきているのかな…
- 蛇口の位置や数を白地図にまどめたら、学校全体に散らばっていることが分かったよ。いつでも、どこでも水を使いやすいからなんだね。【知—①】

【第5時 追究② 資料追究・インタビュー】

受水槽の水は、どうやって運ばれてきているのだろう。

- ・道路の下に 4000km以上の「配水管」があるんだ。先には何があるのかな…
 - ・配水管に異常があると、水が送られなくなってしまうんだね。
 - ・そうならないように日常点検をしたり、うめかえ工事を進めたりしているんだ。
- 長くて丈夫な配水管を通して送られているんだね。私たちのもとに必ず水が送られてくるのは、配水管をしっかり点検・工事してくれているからなんだ。【知—①】

【第8時 追究④ 資料追究】

水源地の水は、どこから送られているのだろう。

- ・資料を見ると地域の川からポンプで汲み上げているみたいだね。
 - ・地図を見ると、川は山の方から流れてくる。きれいな川や山だからこそ、私たちもおいしい水が飲めるんだね。
 - ・これで学習問題が解決したぞ。これまでの学習をまとめてみよう…
- 配水管をずっとたどってくと、川や山という自然にたどりついた。色々な人や施設、自然を通して水は送られている。【知—①】

【第6・7時 追究③ 見学】

配水管の先は、どこにつながっているのだろう。

- ・配水管をたどってくと、「水源地」という場所にたどり着いたよ。
 - ・水は機械で送られているけど 24 時間体制で異常を確認しているんだって。
 - ・自家発電機で、停電が起きても確実に水が送られるようになっているんだ。
 - ・この「水源地」の水は、一体どこから送られてきているのかな…
- 配水管の先には水源地があった。水源地の水は機械と人の力で 24 時間いつでも必ず送られるようになっているんだ。【知—①】

【第9時 まとめる・見直す】

水はどこから どうやって送られてくるのかまとめよう。

- ・24 時間どんな時でも水が使えるのは、色々な施設や人が協力して取り組んでくれているからだということがわかったよ。
 - ・はじめに予想したとおり、「川」の水が送られてきていたよ。
- 私たちがいつでもあたりまえのように水が使えるのは、色々な人々や施設や機械の働きのおかげだということがわかった。でも、川の水を使っているということは、水がよごれている心配はないのかな…【知—②】【態—①】

【第10時 学習問題の解決】

どうして、水道事業部の〇さんは、直接水を汲んできて 51 種類もの検査をしているのだろう。

- ・きっと、川には色々な目に見えない細菌がいるから、色々な機械を使って、検査しているんじゃないかな。
 - ・これだけの検査を定期的に行ってくれているから、私たちは毎日、必ずきれいでおいしい水が飲めているんだね。
- 川の水は汚れていないか少し心配になったけど、〇さんの 51 種類の検査の理由について考えて、私たちの生活を考えて、たくさん検査をしてきれいな水を送ってくれていることがわかったから、安心して飲むことができる。今まで以上に大事に使いたいな。【思—②】

【第11・12時 選択・判断】

水を大切に使い続けていくために、私たちにできることはなんだろう。

- わたしは、水を出しっぱなしで歯磨きをしているから、こまめに水を止めて磨きたいし、お家の人も洗い物やお風呂など色々な所で水を使っているから、水ってたくさんのおのおかげで送られてきているんだよ。大事に使おうって話をしたいです。【思—②】【態—②】

単元学習後の子どもの意識

私たちの生活にかかせない水は、地域の川から汲み上げられ、たくさん施設や人々の働きによって安全な水として届けられていることが分かった。限りある大切な資源だからこそ、使う時にはむだなく使ったり、地域の川そのものをよごさないようにしたり、私たちにできることをしていきたい。地域のみんな、家族のみんな、みんなが使う水を大切にしていかなきゃ。

【単元を貫く学習問題】 私たちの生活にかかせない水は、どこから、どうやって送られているのだろう。